

# 新・こどもと健康

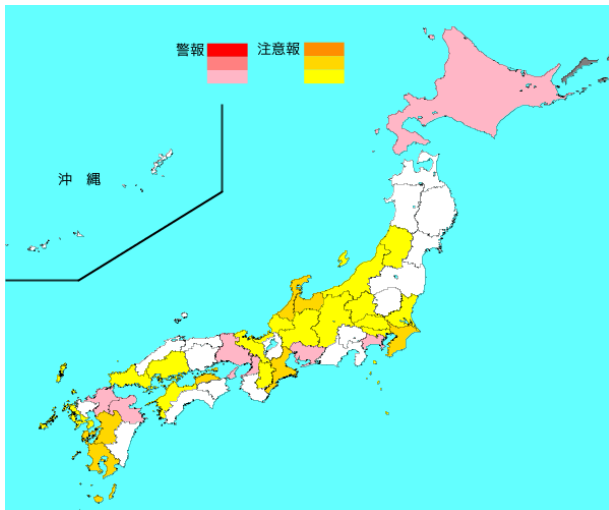
No.24

2019.1.7

あけましておめでとうございます。  
本年もよろしくお願いいたします。

## インフルエンザの流行状況について

2018年12月17日から23日までの週の定点当たりの報告数(報告医療機関で1週間にインフルエンザと診断した平均患者数に当たります)は8.05で、都道府県別では愛知県(23.64)、北海道(22.69)、三重県(12.18)、鹿児島県(11.14)、熊本県(11.10)、奈良県(10.51)、大阪府(9.26)、岐阜県(9.24)、福岡県(9.14)、千葉県(8.66)、香川県(8.55)、神奈川県(8.40)、富山県(8.21)の順になっています。



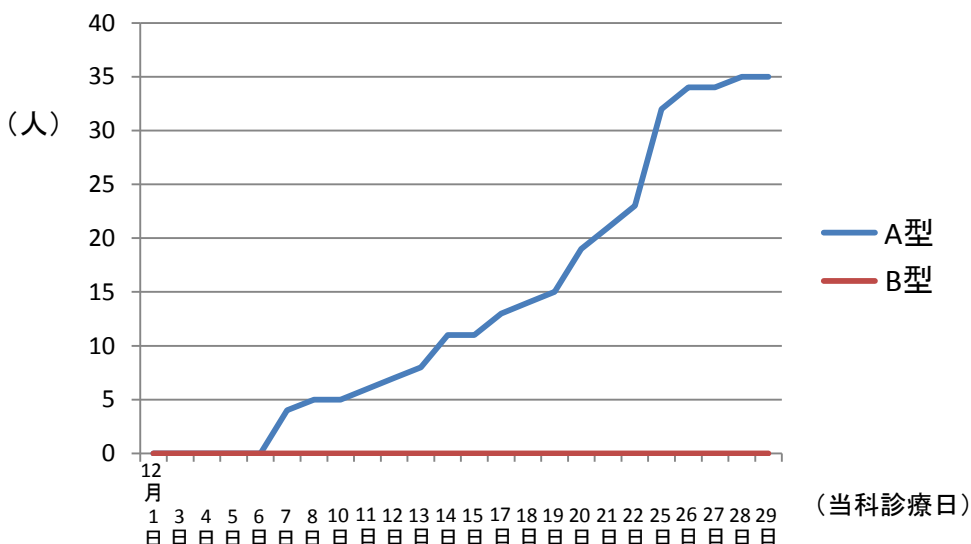
2018年12月10日から16日までのインフルエンザで医療機関を受診した患者数の推計は約11.8万人、12月17日から23日が同約31.3万人です。

国内のインフルエンザウイルスの11月19日からの12月23日までの検出状況をみるとAH1pdm09(2009年にパンデミックと大騒ぎした型)、AH3亜型(いわゆるA香港型)、B型の順とあります。

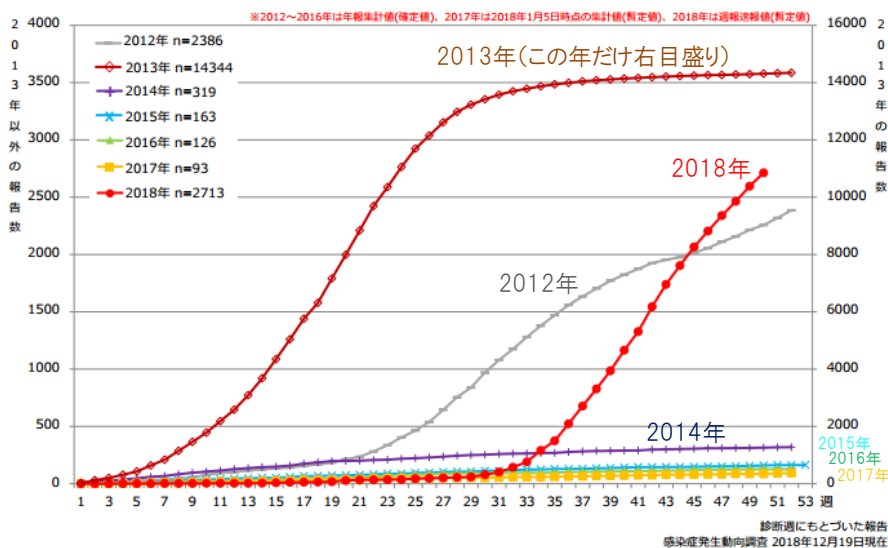
(出典:国立感染症研究所 感染症情報センターHP『インフルエンザ流行レベルマップ』)

## 当科のインフルエンザの流行状況について

2018年12月29日までの当科でのインフルエンザは、12月7日にシーズン初めてA型の方が4名あって、その後累計35名になっています。全てA型です。おそらくはAH1pdm09(いわゆる新型)ではないかと思えます。



## 風疹のその後



(出典:国立感染症研究所 感染症疫学センターHP『風疹流行に関する緊急情報:2018年12月19日現在』、大阪府感染症情報センターHP『風しん情報12月27日更新分』)

風疹はその後も増え続け、2018年年始から11月18日までに全国で累計2,186人、同12月16日までが2,713人となりました。依然2012年の流行のときよりも高い増加率を保持しています。

大阪府でも、風疹の報告数が12月23日までで116人となっています(2017年1年間の累計は10名でした)。

## りんご病が流行するかもしれません

全国の感染症定点報告で見ると、りんご病(伝染性紅斑)が過去5年間の同時期と比較してかなり多く、2018年12月10日から16日までの都道府県別では宮城県(定点当たり5.64)、東京都(2.05)、埼玉県(1.98)の順になっています。

大阪府でも2018年11月から12月にかけて増加し、12月3日から9日までの週に豊能ブロックで警戒レベルを超えていました。一旦減少してきていて、堺市で特に多くはありませんが、今後の動向に注意です。大阪府の12月10日から16日までの定点当たりの報告数は0.56でした。

### <りんご病(伝染性紅斑)について>

原因：パルボウイルスB19というウイルスが原因です。

潜伏期間：軽い発熱期までと考えると約1週間、紅斑までと考えると約10～20日間です。

感染経路：飛沫感染、接触感染です。発疹の出る頃にはもう感染しません。

症状：典型例では、感染後約1週間で軽度の発熱、倦怠感、筋肉痛、頭痛などの風邪に似た症状の出で、そのあと7～10日後に両頬に境界鮮明な真っ赤な発疹、続いて腕や足にレースをかけたような、あるいは網状の赤い発疹が出ます。胸腹背部にも発疹が出ることもあります。発疹は1週間前後で消失しますが、長引いたり、一旦消えて再出現することもあります。成人では関節痛が見られることがあります。非典型例や不顕性感染(感染していても症状が出ない状態)もあります。

検査：検査キットはありません。

治療：特効薬はありません。

問題点：妊婦さんがかかると胎児の異常(胎児水腫)や流産を起こすことがあります。風疹感染ほどの危険性はありませんが、妊婦さんが感染した場合は、超音波検査などで胎児の状態をよく把握することが必要であるとあります。

(出典:IDWR『感染症週報:2018年第50週(12月10～16日)』、大阪府HP『伝染性紅斑(りんご病)について12月27日更新分』、三重県感染症情報センターHP『りんご病』)

## 年長さんは麻疹風疹(MR)ワクチンのⅡ期を打ちましたか？

年長さんの学年の方の麻疹風疹(MR)ワクチンの2回目(Ⅱ期)は3月31日が締切です。ただし、3月31日は日曜日ですので、実質30日(土)までに未接種の方は忘れずに受けてください。間に合わなければ、自費になります。

1月・担当医の変更

なし